

## 新規採用医師紹介



徳本 寛人



### プロフィール

○診療科 整形外科

○趣味・特技 テニス・競馬

○ひとこと テニスとお酒をこよなく愛する整形外科医です。親の仕事の関係で、大阪・京都・埼玉・名古屋と移り住み、鹿児島で大学生活を送りました。宮崎は初めてなのでよろしくお願いします。



## 地域医療連携室よりお知らせ



**当診療科での待ち時間短縮を目的として  
平成26年4月1日より  
紹介患者様の事前予約が必要になります！！**

### 予約方法

①別添の「診療予約申込書」にご記入のうえ、FAXでお送りください。

FAX番号：0984-23-8226

受付時間：9時～16時

②担当科と協議の上、診療日時を決定し、「診療予約通知書」をFAXさせていただきます。

※上記時間以外のFAXは翌朝、休日をはさむ場合は休日明けの対応となりますのでご了承ください



連絡先 小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

# 地域医療連携だより

9号

平成26年3月20日発行  
発行/小林市立病院 地域医療連携室

### ～室長 あいさつ～

一歩一歩春の足音が近づいていますが、皆様におかれましては、当院運営に対し日頃より多大なご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

4年に一度の冬季オリンピックは、日本選手の活躍最後まであきらめずに挑戦する姿に感動し、我々も頑張る勇気を頂きました。

当院は、内科入院のできない状況は改善されず、地域の皆様にはご迷惑をお掛けしております。



さて、昨年5月着任いたしました、救急科の川井田を中心に可能な範囲で救急対応を行っておりますが、宮崎市内の医療機関のご協力により、当院で対応不可能な重症症例も、当院ヘリポートを利用したドクターヘリ搬送、モービルCCUの活用もあって、以前に比べ格段に対応能力が向上しております。

しかしながら、限られた医師数での対応で、かつ病棟の空床がなく入院患者の受け入れが困難なケースが以前より多くなり、近隣の医療機関の先生方にはご迷惑をお掛けすることを、大変申し訳なく思っております。

このような状況をおくみとりいただき、今後とも、ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室長 島名 昭彦



# 各部署紹介

今回は、**4 階 病棟** です。

本院は、回復期リハビリテーション病棟を平成25年6月に開設しました。  
 回復期リハビリテーション病棟では、大腿骨頸部骨折や脊椎圧迫骨折・術後などの患者さんに対しリハビリテーションを行い、日常生活行動の援助を行っています。本院には医師・看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・退院支援看護師・メディカルソーシャルワーカーがいます。日々のリハビリテーションに加え、患者さん自ら在宅へ向けての日常生活援助ができるように、多くの職種が連携して支援しています。  
 また初回・定期・退院調整カンファレンスを行っています。  
 定期カンファレンスにおいては本人や家族を招いて、退院調整カンファレンスでは担当ケアマネジャー・居宅看護事業所や訪問看護のスタッフ・福祉用具担当の方々を招いて行っています。医療従事者と地域の職種が連携を取り、住環境や食事・内服管理・入浴・リハビリテーションなどの問題解決を図っています。  
 また長くなった入院生活で患者さんの気持ちを元気づけるため、毎週日曜日レクレーションを行っています。ゲームをしたり工作をしたり、月の終わりにはカレンダー作りもしています。手先の細やかな動きやにこやかな笑顔があり、楽しいひと時を過ごしておられます。  
 今後も一人でも多くの患者さんに退院支援を行い、前向きな気持ちで自宅・施設に帰っていただくよう支援していききたいと思います。



師長 竹内 かおり

11月・12月・1月の手作りカレンダー



# 症例検討会報告

平成26年2月24日(月)に「第14回症例検討会」を当院2階大会議室にて開催しました。今回は、院外から居宅介護支援センターやすらぎ介護支援専門員 愛内さんに『退院時支援を通じて思うこと』の演題で発表していただき、充実した会になりました。  
 次回は、6月を予定しておりますので、多数の参加をお待ちしております。

## 第14回症例検討会

日時/参加人数	平成26年2月24日(月)	18時30分～	93名
座長	小林市立病院 肝胆膵外科医長 大堂 雅晴 先生		
演題(発表者)	『回復期リハビリテーション病棟の現状報告』	(竹内 かおり)	
	『名札(器械名を記入した紙)の活用による器械紛失防止の取り組み』	(池ノ上 功一)	
	『胸部CTにおけるハイレゾリューションCTの活用』	(齋藤 貢)	
	『外科的治療と血液浄化療法により救命できた膀胱穿孔の一例』	(南村 英次)	
	『退院時支援を通じて思うこと』	居宅介護支援事業所 やすらぎ	(愛内 勝子)
	『小林市立病院におけるがん化学療法の現状』		(永友 由里子)
	『小児のスポーツ障害』		(徳本 寛人)

